



部門に於ては殆んど全面的に増産のテンポを鈍化し又計畫量に達しなかつたか、農業部門殊に穀物生産に於ては頗る順調の経過を辿つてゐる、即ち世界播種面積及生産高に於て蘇聯の占むる割合を見る。

小麥	播種面積	二七・九%	總生産高	三一・一%
大麥		二四・三%		二四・七%
燕麥		三一・五%		三一・五%
甜菜		三五・四%		三六・五%

これは千九百三十七年度の蘇聯農事統計に依るが、更に同四十年度に於ける家畜頭數を見ると、牛二千萬頭、綿羊及び山羊四千四百九十萬頭、豚八百二十萬頭、馬千四百四十萬頭である。

斯様に蘇聯は食糧にも又天然資源にも豊富であり、これ等の資源は潜在的戦争の動力であることは勿論であるが眞に動力化し得るのは生産力である、然るに蘇聯は總生産高に於ては優位を占めるに拘らず、一人當りの平均生産額に於ては未だ遠く獨逸に及ばざるのみならず、英米佛にも遙かに劣つてゐる。

獨蘇間の人口一人當りの平均生産高

電力單位キロワット時	蘇聯	二一五、獨逸	七三三
銑 鐵 坩	同	八六、同	二三四
銅 鐵 坩	同	一〇六、同	二九一
石 炭 坩	同	七五七、同	三三三三

セメント坩	同	三二二、同	一七三
砂 糖 坩	同	一四、同	二九
紙 坩	同	五、同	四二

かやうに蘇聯は一人當り生産力は獨逸と比較して問題にならないのである、それ故にモロトフもこの點を指摘して、斯くの如き後進性の克服が千九百三十八年以降の課題であると云つた、第三次五ヶ年計畫はこれが克服への第一歩であつたと云へるのであつた。事實蘇聯は千九百卅二年より約五ヶ年の一般狀況は所謂物資及び生活必需品の計畫的分配は計畫だけで役には立たず、國民の大部分は飢餓線上に曝されたのであつた、千九百三十五年に初めて共產主義者達はこれを認め、そうして自由な取引を採用したのである、勞働者階級の賃銀は安いにも拘らず、生活費は食料品カードを廢止したためにかへつて奔騰し、それが廣い國民層の悲惨さを國定化させたのである、しかもその反面には金は充分に給與されて贅澤豪華な生活をしてゐる人達もゐるのであつた。

第一次五ヶ年計畫の進行につれて、自作農階級は減ほされて農民大衆は蘇聯の國家權力に無理矢理に屈服させられて、國家の奴隸として、ソヴィエト農場や軍團農場で働くことに依つて、辛うじ生活してゐる有様である、個人經營の基礎に立つて商業を營んでゐた商人階級並に一般中産階級は全く農民より以前に既に滅亡して仕舞つたので國民の生活は輕率にこの方面からも破壊さ

れ、加ふに國家の配給組織はまだ殆んど存在してゐない有様であつた、このやうな狀況であつたから如何に蘇聯當局者は權力を以てこれに望んでも蘇聯の生産力は中々豫期にまで達成することは容易ではなかつたのである、茲に蘇聯の大なる悩みがあつた、従つて蘇聯の生産力は現在未だ實質的に蘇聯の全國民經濟を支へるに足るものではなかつたから、これが再出發がこれからの重大なる課題であつた、斯る狀況の下に獨蘇戰爭が勃發したのである。

獨蘇の開戰當初は二ヶ月乃至三ヶ月で獨逸は所期の目的を達成するだらうとの觀測は専らであつたが、意外にも蘇聯の抗戦力の強靱さを示して來たので、北はバルト海から南は黒海に至る迄蜿蜒千五百料に亘る大戦線が膠着しかけると、獨蘇戰は愈々今年中には片付かずして來春まで持越さるゝであらうとの豫想が行はれるに至つたのであつた、當の獨逸すらも亦長期に亘る持久戰を覺悟しその對策を進めつゝあつたやうであつた、斯る際に於てウクライナの首都……苟も露國最初の舊都キエフの陥落は蘇聯に經濟上又精神上多大の影響を與へたと共に、列國の動向を急角度に變更せしむるに足るものがあつた、オデッサとレニングラードの陥落は目撃に迫り延いてはモスコウの攻略も嚴寒の訪れる前に完遂するかも知れぬと云ふことが豫想さるゝに至つたのである、果してこの通り進歩したとせば蘇聯は完全に歐露を失ふことになるが、この際露國は赤色政府が崩壞して獨逸に降伏するか果た又ウ

ラル以東に立籠つて飽く迄長期抗爭の態度を採るかは問題であるが、兎も角歐露を喪失した蘇聯は其の抗戦力に於ても經濟力に於てもその生食の七八割を失ふことになるのは必然であることはかやうに數字が示してゐる、即ち蘇聯が歐露を放棄してウラル以東の地點に退却した場合に於ける蘇聯工業力の減退率は。

- 全工業に於て……………八〇%
- 石油生産に於て……………九〇%
- 採炭業に於て……………六二%
- 製鐵工業に於て……………七〇%
- 金屬加工工業に於て……………八五%
- 化學工業に於て……………八〇%
- 電力業に於て……………八二%
- を失ふことになるから蘇聯の工業にとつては致命的打撃たることは云ふまでもないが更に農業に於ては、
- 作付面積に於て……………七二%
- 全生産穀物に於ては……………六一%
- 食糧穀物に於ては……………六九%
- 棉花に於ては……………八〇%
- 牛馬に於ては……………七三%
- 羊及山羊に於ては……………五七%
- 豚に於ては……………八二%

を失ふ計算になる、而して一般的食糧問題を検討すると歐露を喪失したる蘇聯は食料穀物については約六十二%を失ふ次第であるが、殘餘の三十八%を以て優にウラル以東の住民を支へ、尙且七百五十萬噸の餘剰を生ずるとは嘗てブラフタが「歐露と歐露以東の食糧問題」と題して掲載したところに依つても略ぼ判明するのであるが、この七百五十萬噸の食料穀物は又優に歐露よりの流入人口千二百萬人を養ふに足り得るのである、更れば蘇聯の住民は其の生活水準の低下さへ覺悟すれば例ひ歐露を失つてウラル以東に遁入するも食糧問題だけは左程決定的な打撃を受けずして辛じて解決が出来得るのである、併しながら蘇聯がウラル以東に立籠つた場合

に於ける地位は全く近代國家の態形を完全に喪ひ従つてその抗戰力も亦現在の蔣介石政府の如く地方的存在政權となつて土匪的水準に低下することは各専門家の一致した見解であるが、赤色政權の徹底的崩壊せざる限り鈍重と粘り強さを以て特徴とするロシヤ人はこれ等の總ての苦難に克く耐へて飽くまで抗戰を續けるであらう。

併てこれら蘇聯の最近に於ける交通運輸問題を觀察するに當つてこれに關聯を有する蘇聯の主たる産業分布状況を見る必要があるが、這般英米の軍事技術専門家が多數蘇聯邦に派遣されたが、蘇聯側はこれらの人々に對してすら戰線觀察はおろか軍需工場は勿論一般産業視察さへ許可を與へず、これがため英米側では獨蘇

戰の真相及び蘇聯電需補給力の状態をも知り得ざる有様なるを以てかゝる状況の下では有效適切なる對蘇援助は到底不可能であると云はれてゐる位に蘇聯は秘密主義を嚴守してゐるから従つて其の内容は外界からは克く判明せざるも中央經濟局の報告其他によつて見ると。

千九百三十七年度に於ける蘇聯の重要物資生産の中石炭の總産出高は一億二千七百萬噸となつてゐる、其の内約七千七百萬噸即ち六十五%は専らドンバス地方よりの出炭である、而して埋藏資源はこの地方よりは寧ろウラル以東に豊富であり彼のクズネツ炭田を中心とするシベリヤ地方の如きは其の埋藏量は實に五百五十七億萬噸と云はれてこれを全蘇聯の石炭埋藏量に比較すると約四十三%を占めてゐるが鐵道、道路等の交通機關其他の關係に於て現在に於ては殆んど開發されてゐない状態である、石油に付ては千九百三十八年度に於ける全採油高は三千二百二十萬噸であつたがこの内約八十四%は現在獨逸が狙らつてゐると云はれてゐるユカシヤ地方の産出であつて、殊にバタ1及びグロズメイの兩油田に集中してゐるがウラル以東の採油量の如きは僅かに三・五%といふ貧弱さを示してゐる、これも亦現在に於てはその開發に着手せざる状態は前記石炭開發と略ぼ同様で主たる原因は交通問題の解決にある、即ち交通運輸機關の設備が未だに整はない状況であるから着手しやうとしても不

可能の有様である、更に進んで鐵鑛の產出量を見ると千九百三十八年度に於ては總採取高は二千六百五十萬噸に上つてゐるが其の内約六十%は過日キエフの陥落に依つて最早や時日の問題とされてゐるウクライナ地方である、夫れがために獨逸は自からの鐵鑛及び食糧問題の解決と確保のためには如何なる犠牲を拂つてもウクライナを完全に攻略せんと欲してゐる理由もこゝに見出せるのである。

更れば蘇聯は歐露を喪失すれば殆んど致命的大打撃を受けることは勿論なるも併乍ら蘇聯の住民はその生活水準の一層低下さへ覺悟すれば例ひ歐露を失つてウラル以東に遁入するとも食糧問題だけは決定的打撃を受けずしてまだ解決が出來得るのである、蘇聯がウラル以東に立籠つた場合に於ける地位は全く近代の國家形態を完全に喪ひ以てその抗戰力も亦現在の蔣介石政權の如く地方的存在の政權となつて土匪的水準に低下することは専門家の一致したる見解ではあるが、由來鈍重と粘り強さを以て特徴とするロシヤ人は恐らくはこれらに耐へて飽くまでも抗爭を續けることは赤色政權の徹底的崩壊せざる限り繼續すると見るのは至當であると考えらるゝのである、更に蘇聯が抗戰力の如何を測定するに直接重要關係を有する全蘇機械工業の生産状態を見ると。

元來露國は歐洲に於て工業國としては一番遅延した國であつたが獨のロマノフ家第五代ペートル一世の時代に於て彼れは自ら

西遊して大工、鍛冶、造船その他各汎の技術を習得し西歐の機械文明の眞相と體得した上和蘭人九百名の技術家を伴つて歸へり茲に一大改革を始めてペテルブルグ市現在のレニングラードを建設し運河を開掘し道路を建設し商業、鑛業及び工業を極力獎勵して必要な庇護を惜しまなかつたのでこれ等の努力によつてペートル即位當時には唯一つもなかつた露國の製造場と工場とがその時代に既に二百三十三ヶ所の多きに達しバルト海岸に出入した外國船舶數は帝の在世時代たる千七百二十五年には九百十四艘貿易總額は輸出二百四十萬ルーブル輸入百六十萬ルーブルに上つたと云はれロシアに近代的産業の種子を植付けた人であるが、その露國の經濟組織は軌近資本主義より社會主義への過渡期にあつたので蘇聯の一切の機構は共產社會の實現を指して進轉しつゝあつたのであるが然しながら現在に於ては必ずしも總てが共產主義的に運用せられつゝあるといふことが出來ない狀況にある、かやうに蘇聯經濟の内部には尙多くの資本主義經濟の法則が支配する部分が残つてゐて實にそこに新なる統制的計畫の經濟形態と傳來の無政府的個人的な經濟形態が並存するのである。

かやうの狀態であるから従つてこの兩者の輕重の比例はどうであるか、兩者の合む矛盾の發展方向は果してどうであるか等々と各種の問題は全くこの二經濟形態並存より來る當然の歸着ではあ

るが、このために現在に於ても蘇聯の産業……機械工業はその組織化に於て又其他に於ても各河のそれと比較して相當異つたところが見出されるのである。然しこういふ内部的細微な點は兎も角として蘇聯は千九百三十七年の蘇聯機械工業部門の報告は七十八%はロシア共和國に十七%はウクライナ共和國に工業生産額を持つてゐる、其他の共和國は悉く僅かに1%以下を占めてゐるから其の分布状態は機械工業に對しては平均に散布状態に非らずして集中してゐることが判明する様にその中心地はモスクワ州とレニ

ングラード州でありこの兩州で全蘇機械工業産出の約六十%を占めてゐる、化學工業も亦同様の状態である、又絹布、セメント、制紙等の生産工業もこの兩州に於て約八十七%を占めてゐるから蘇聯の資源並に生産の分布状態は甚だしく偏在的であるに加ふるにそれ等が同境附近乃至爆發圈内に多く集中してゐるのは蘇聯の最大の目的であると思はれるのである、以下次號にこれ等産業と交通關係を検討して見ることにする。(九月廿五日記す)

## 鳥取縣と土木行政(二)

前 田 豊

### 一、位置及地勢

鳥取縣は山陰道の中央に位し東經百三十三度十四分より百三十四度二十六分に至り、北緯三十五度三分より三十五度三十七分の間在つて東は兵庫縣南は岡山縣及廣島縣に接し西は島根縣に隣し北は全部日本海に面し西北部の一端長く海に突出して半島をな

し一葦帯水を隔て、島根半島と相對す。地勢は東西に長く南北に短く南方一帯は陰陽兩道を分離する中國山脈を以て塀をなし東方も峻嶺を以て兵庫縣但馬と境し峯巒重疊南に高く北に低し、從つて河川は總て縣内中國山脈に水源を發し北に流れて日本海に注ぐ西南は深く岡山縣三備州及島根縣出雲の間に突入し西部は山岳を